# 第６回　富山広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会　議事要旨

日　時：令和４年９月２９日（木）　10：00～11：40
場　所：富山市役所　東館８階　大会議室
出席委員：(順不同)

| | |
|---|---|
| 村井　義治 | 富山地方鉄道株式会社　取締役 |
| 長尾　治明 | 富山国際大学　名誉教授　※座長 |
| 中村　和之 | 富山大学　副学長 |
| 山本　覚 | 株式会社日本政策投資銀行富山事務所　所長 |
| 高田　英俊 | 社会福祉法人富山市社会福祉協議会　事務局長 |
| 森田　由樹子 | 一般社団法人富山県旅行業協会　理事 |
| 古邸　幸裕 | 公益社団法人とやま観光推進機構　企画販売部長 |
| 山西　潤一 | 富山大学　名誉教授 |
| 永長　信行 | 社会福祉法人中新川福祉会　理事長 |
| 伊井　謙治 | 上市町区長協議会　会長 |
| 大岩　久七 | 社会福祉法人立山町社会福祉協議会　会長 |
| 金尾　公詳 | 一般社団法人立山町観光協会　事務局長 |

オブザーバー

| | |
|---|---|
| 南里　明日香 | 富山県地方創生局長 |

**議事内容：**

**1.　開会**

**2.　資料説明**

〇資料１にもとづき「富山広域連携中枢都市圏について」、資料２にもとづき「圏域内の人口について」、資料 3～4 にもとづき「第１期計画期間の連携事業及び成果指標（KPI）の実績について」、資料５にもとづき「第２期富山広域連携中枢都市圏ビジョンの素案について」を事務局より説明した。

**意見交換**

**（委員）**

市民、町民、村民目線という観点で、富山広域連携中枢都市圏の住民の方々からアンケートをとるなど、住民からの評価を実施しているのか。

また、広域連携することで、富山市の病院に行きやすくなったなど具体的な効果としてどういうものがあったのか。

（事務局）

圏域の住民の方々に対して、アンケートをとったことはない。

富山広域連携中枢都市圏の連携事業に位置付けたことによって、まちなか総合ケアセンターの一部事業では、連携市町村の住民も利用できるようになり、一定程度の満足度はあると思っている。

（委員）

市民、町民、村民目線という観点で、評価があるとより良いと思う。

（委員）

鉄道の利用状況（資料 5-1 の P24）について、コロナ禍で落ち込んだ利用者の戻り方が、鉄道と軌道で異なっている。鉄道では 7 割程度、軌道では 9 割程度の戻りである。南北接続の効果もあり、この点（鉄道の利用状況）について、もう少し評価をしてもよいのではないか。バスとの関係性はどうであろうか。

また、昨日、上市町で社会見学があり、TOYAMA キラリを見学するプログラムがあった。このようなプログラムは広域連携のメリットだと思うので、今後も進めてほしい。

（事務局）

バスに関するデータがあれば、ビジョンに反映したいが、難しければ、今後の検討課題としたい。

（委員）

富山広域連携中枢都市圏で中核機関の共同設置はしないのか。

（事務局）

富山市は中核機関を設置しているが、他の連携市町村では設置していない。ただし、一部自治体では、中核機関設置に向けた動きがあると聞いている。

（委員）

各自治体で中核機関を設置することもよいと思うが、広域圏内に中核となる機関が 1 か所あれば、後見人と被後見人が広域圏内の別々の自治体に住んでいても、1 つの場所で一括して手続きができる。そういった意味で、広域圏として中核機関があればいいと思うが、いかがか。

（事務局）

富山市は社会福祉協議会に中核機関を設置しているが、財源や専門的な職員の確保が難しく、今のところエリアとしては富山市のみとなっている。連携市町村の中には、独自に中核機関の設置を検討しているところもあり、第 2 期ビジョンでは、まずは、後見人を育成するための研修から始めることとした。一本化ということについては、今後の方向性を踏まえ、検討する。

（委員）

ふなはし荘では、舟橋村だけではなく、他の連携市町村の方にも利用いただいている一方、医療に関しては上市町や立山町の病院、医院を利用しており、より専門的な医療になると富山市の病院を利用している。今後、団塊の世代が 75 歳を迎えることから、富山広域連携中枢都市圏の機能は、介護・看護・医療の分野でもますます重要になってくる。

最近、中新川郡の高齢者福祉施設に携わる職員が集まって、中新川福祉ネットワーク連絡会を立ち上げた。この連絡会の中で、情報交換を密にし、協力することで、地域住民に信頼され、社会貢献の一端となるよう、今後も頑張っていきたい。

（委員）

少子高齢化対策として、地域人材を増やすためには、首都圏からの人材を呼び込むことが必要である。これには、ワーケーションやテレワークなどのインフラを整備した上で、自然環境豊かな富山県や富山広域連携中枢都市圏の魅力を伝えることが重要となる。企業が来れば、学生も就職する。そうすれば、Uターン率や地域への就職率も上がる。

また、デジタル庁では、デジタル推進アドバイザーを募集している。これからのデジタル化に対応する人材を育成するために、公民館や空き教室などを利用した生涯教育の場で進めていく必要がある。現在、学校統廃合により空き教室が増えており、これを有効活用し、学び直しの場にしていくような施策があってもよいのではないか。

話は変わるが、滑川市では産科がなく、上市町の産科を利用していた。今後、上市町の産科もなくなる予定であり、連携体制がどうできているのか気になった。

（事務局）

少子高齢化が進んでいく限り、DX の推進が必要であり、第 2 期ビジョンの情勢の変化にもデジタル化の推進を加えた。ご意見いただいた内容については、圏域で連携できるのか、基礎自治体として行うべきなのか、県を中心として行うべきなのか、見極めながら検討していきたい。

（委員）

観光連携は非常に重要だと思うので、今後も推進してもらいたい。

富山市の SDGs プログラムの内容はすばらしく、教育旅行としては非常にいい素材である。富山市の観光政策課と連携して、全国に PR している。富山市だけで完結するのではなく、他の連携市町村にもいい素材はたくさんあるので、富山市が中心となり連携することで、広域連携や滞在化につなげてほしい。

観光政策を進める際に、行政主導はもちろんだが、リアルに観光を動かしている事業者とともに進めていくことが重要だと思う。宿泊、運輸、旅行業などの事業者を巻き込みながら、進めていくべきである。いいコンテンツや素材があっても、購買につながらないと意味がない。

また、観光において、大事なのは宿泊者数。宿泊は経済効果も大きい。宿泊者数や宿泊額を KPI 指標としてはどうか。

（委員）

富山大学では、県内から進学してくる学生は全体の 3 割弱。医学部や芸術文化学部など全国から学生が来る学部もあり、この数値が低いとは思っていない。全国から関心を持って集まってくるということで、むしろいいことだと思っている。一方で、卒業生の県内就職率は 37～38%程度であり、もう少し伸びしろがあると考えている。

合同企業説明会で情報を提供すると同時に、インターンシップに向けた説明会があってもよいのではないか。むしろ大学 1，2 年生に県内の企業の魅力を説明するプログラムがあってもよい。連携中枢都市圏として企画できればいいと思う。

また、大学生は就職した後の自分自身の生活にも関心を持っており、連携中枢都市圏ぐらいの空間的な広がりがあれば、就職後のライフステージごとの生活のあり方を示していただけるといいと思う。

県内企業のインターンシップを体験した学生は、県内企業にいい印象を持っており、それが縁で入社した学生もいる。

（委員）

1 期と 2 期の策定にあたって、変化したことは新型コロナウイルス感染症が流行したことであり、感染症対策についても富山広域連携中枢都市圏で連携していくことが必要であり、医療計画策定にあたっては、この懇談会でも議論があった旨を情報共有してほしい。

カーボンニュートラルや SDGs など富山市の進んだ取組を連携市町村に共有しながら進めてほしいと思った。さらに、富山市は、官民連携やＰＦＩの実績も豊富なので、民間企業の活用の仕方といったことも連携市町村と共有してほしい。

観光・交通に関しては、「富山マイルート」を利用するなど、民間企業の活動とも連携しながら、観光客の二次交通や住民の利便性の向上につながるよう連携を検討してほしい。

（オブザーバー）

コロナ禍でもしっかり事業に取り組んでいると思った。特に、子育てに関する事業は連携ができていると思っている。

圏域内の市町村の意見を踏まえた上で、第 2 期ビジョンを作成されており、県としても感謝している。SDGs や PPP・PFI などを富山市の得意な分野もあるので、得意な分野を生かして中心市として引っ張ってほしいと思う。

医療計画に関する意見については、県の厚生部にも伝えたい。

観光や移住に関しては、北陸新幹線延伸に伴い、首都圏だけではなく、関西圏への PR にも力を入れたいと考えている。連携してやっていきたい。

引き続き、富山市には連携市町村の意見を聞きながら、さらに意見を反映しながら、進めてほしいと期待している。

（座長）

各委員より貴重な意見をいただけたと思うので、事務局で整理いただき、第 2 期ビジョンにつないでいただければと思う。